



# ドイツ、すべての原発を停止

## 2030年には発電量の80%が再生可能エネルギーに

4月15日、ドイツは、2002年に定めた「脱原発法」に従って、最後まで運転していた3基の原子炉を止めました。ウクライナ戦争の影響で4ヶ月間だけ運転を延長しましたが、37基の原発を作り1961年から約60年間続けてきた原子力発電をやめ、脱原発を実現したのです。

ドイツは電力消費量の46.9%（2022年）を再生可能エネルギーでまかっています。この比率をさらに高め、2030年には電力の80%を再生可能エネルギーでつくることを目標にしています。目標達成のために必要な施策は、「再生可能エネルギー法（EEG）」などの法律で明確にされています。

### 「グリーン水素」など 技術革新が脱原発を後押し

太陽光や風力などでつくる電気はコストが高く、不安定だと言われてきました。しかし、技術が進み、急速に世界に広がり、コストもどんどん下がっています。ドイツのミュンヘンでは地熱を発電や冷暖房に利用することによって、再生可能エネルギーの比率が90%にもなり、注目されています。

また、炭酸ガスを出さないエネルギーで注目されている技術に、「グリーン水素」があります。再生可能エネルギーでつくった電気でお水を分解してつくる水素が「グリーン水素」です。これまではあまりにもコストが高く、発電などに使うのは夢の話でした。しかし、水素を使ってCO<sub>2</sub>を出さない社会にしようとする努力によって「使える技術」になりつつあります。水素を発電用に溜めておけば、自然現象による再生可能エネルギーの不安定さを補うこともできます。

### 廃炉、核燃料・廃棄物処分 原発止めても残る途方もない課題

脱原発を実現したドイツですが、廃炉作業や放射能に汚染された廃棄物の処分はこれからです。10万年かかるといわれる使用済み核燃料の処分地は、日本と同じで、決まっていません。しかし、人が近づくことさえできない使用済み核燃料は、これ以上増えません。一方、日本は、原発の再稼働、新增設を進めて、使用済み核燃料や放射能にまみれた廃棄物を、これからも増やし続けようとしています。

【裏面につづく】

**全造船関東地協労働組合  
よこはまシティユニオン**

〒230-0062 横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505  
TEL&FAX 045-575-1948  
E-mail yuniyoko@d2.dion.ne.jp



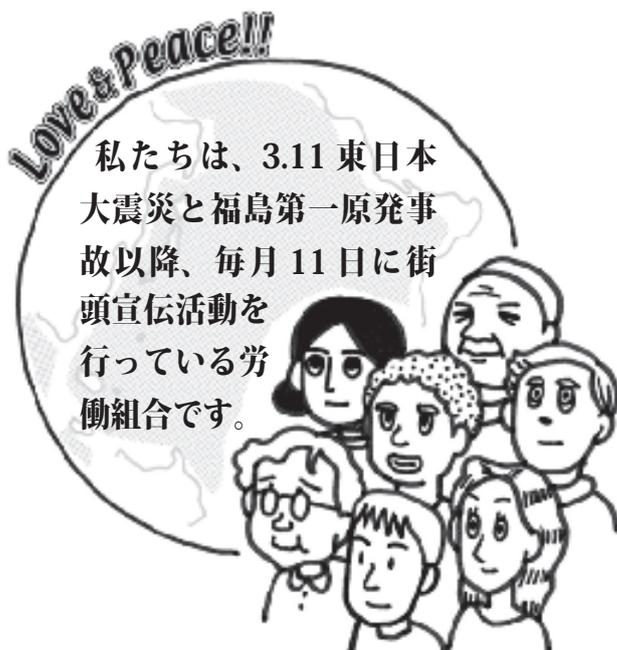
## 原発大国フランスは、電力不足 ドイツは電力輸出超過

ドイツは原発で作ったフランスの電力を輸入してるじゃないか、と言う人がいます。ヨーロッパの国々は電力を互いにやりくりしていますが、08年～21年の間、ドイツは電力の輸出超過国です。20・21年は、フランスに対しても輸出超過です。

一方、原発比率の高いフランスは、今年の夏、メンテナンスや配管の亀裂で原発56基のうち30基が止まりました。気候変動による猛暑や干ばつで、原発を冷やす川の水温が上がったり水位が下がった時は、出力を下げたり運転をとめなければなりません。11月には計画停電の方針を発表するほど電力が不足しました。唯一建設中の新型原子炉・フランマンヴィル原発3号機は、最初の運転開始予

定から12年経っても稼働できず、建設費は132億ユーロ（約1兆9000億円）にふくらんでいます。

原発大国フランスでも行き詰まりを見せる原発。日本も1日も早く脱原発を決断するよう声を上げましょう。【組合員N】



### ■ 故長尾光明さんの闘いを胸に

よこはまシティユニオン組合員の長尾光明さん（故人）は福島第一原発で働き、被ばくが原因で退職後に多発性骨髄腫（血液のガン）を発症し労災認定されました。損害賠償を求めて東京電力を相手に裁判を起こしましたが、東電は労災認定はおろか病名すら否定。裁判所も長尾さんの請求を棄却しました（最高裁2010年4月）。

### ■ 原発で働く労働者と共に闘います

原発は電力会社を元請とした4～8次の下請会社で稼働しています。3.11以降、多くの労働者が福島第一原発の収束作業に関わり、被ばくを余儀なくされています。東電福島第一原発の収束・廃炉作業や九電玄海原発の定期検査に従事し、被ばくが原因で白血病になったあらかぶさん（40代男性）は2016年11月22日に東京電力と九州電力を相手に損害賠償を求めて提訴し闘っています。ぜひ多くの皆さまのご支援をお願いします。

### ■ 職場の問題、いつでもご相談を！

東日本大震災や原発事故を忘れないため毎月11日に街頭宣伝活動を始めて、もうすぐ12年になります。労働組合としてできる事は何かをいつも考えています。「福島どころじゃない」「自分の仕事と生活が大変」という方もいるでしょう。そんなあなたこそ、あきらめる前に一度ぜひ職場の問題をユニオンに寄せてください。一緒に解決しましょう！